

統合国際深海掘削計画 (IODP) 科学アドバイス組織 (EPS) 会議報告書

提出年月日： 平成 19 年 1 月 15 日

(ふりがな) まつおか としふみ

氏名： 松岡 俊文

所属 (職名)： 京都大学工学研究科 教授

会議名	7th EPSP 会議
会議期間	平成 19 年 1 月 9 日 ~ 平成 19 年 1 月 10 日
用務地 (国・都市)	JAMSTEC 横浜市 日本
<u>目的</u> 横浜の JAMSTEC 事務所で開催された第 7 回 EPSP 会議に EPSP パネルメンバーとして出席し、掘削プロポーザルの安全環境に関する評価、及びそれらに関連する事項に関して議論を行った。	
<u>会議内容及び報告事項</u> 会議は以下のアジェンダに従って行われた。 <ol style="list-style-type: none"><u>議事前事項</u> 会議に先立ち会議のアジェンダの確認と、プロポーネントとパネル委員間でのコンフリクトに関して説明がなされた。<u>前回の議事録の承認</u> 軽微な修正がなされ、承認された。<u>現在の IODP の他のパネル及び各 IO の活動状況に関して以下の報告がなされた。</u><ol style="list-style-type: none">SPC: 現在 IODP の組織に関して議論されており、EPSP と SSP パネルとの関係などに関して意見があれば、15 日 (月曜) までに Berry Katz にメールするようになった。USIO: SODV の改造の現状に関して報告がなされた。ESO: New Jersey Shallow Shelf での掘削と、Great Barrier Reef に関する掘削について説明があり、リーフでの掘削に関して、意見があれば、15 日までに Barry へメールすることとなった。CDEX: ちきゅうのテスト掘削クルーズの結果、及び、ちきゅうの現状と今後の運行予定に関して報告がなされた。SSP: SSP でのレビューの方法に関して説明があった。また EPSP パネルとの関係について質問があり、両者では役目が違っているとの見解が出された。IODP-MI : 現在の Proposals に間にて報告がなされた。 「ちきゅう」のスケジュールに関して、石油掘削への貸し出しについて質問が出された。<u>Review of Proposal 600 Canterbury Basin</u> ニュージーランドカンタベリー盆地に 5 本ノンライザー掘削の提案。シーケンス層序学的に興味深い地域であり、海水準変動を正確に同定する。また既に石油掘削井が 5 本存在しこれらのデータも用いて解釈を行い、坑井のロケーションを決定した。Shallow Hazards に関しては、AOA Geophysics に依頼しハザードの可能性に関して検討を加えた。オルタネイティブを含め今回提案された合計 14 坑井に関して、LWD/MWD を考慮し、掘削深度を +50m ですべて承認された。	

5. Proposal 595

アラビア海での掘削を提案しているプロポーザル595に関して、ジオハザードの検討がなされている現状について、パネルメンバーの Craig Shipp と Bob Bruce により報告された。

6. Preview of Proposal 537A CRISP

コスタリカ沖でのプレート沈み込み地帯での掘削を提案。ノンライザー掘削 5 本が提案され、掘削地点の軽微な移動はあったが、すべて承認された。また、これらのオルタネイティブとして 5 本の提案がなされ、これも承認された。

7. Preview of NanTroSEIZE Stage 1

南海トラフにおける沈み込み帯において、スプレーフォルトを掘削する計画。新しく取得した 3D の反射法地震探査データを基に検討が行われた結果を踏まえて、修正提案がなされた。ライザーレスの掘削提案であったが、掘削深度 2700m に関して議論があった。その結果掘削深度を変更して、すべて承認された。またオルタネイティブとしてさらに 2 本の提案がなされ、これも承認された。

8. LWD/MWD Operational Template

CDEX で進めている LWD/MWD に関するテンプレートの作成に関して報告された。目的は掘削ハザードを予測するためであり、ライザーとライザーレスとで両者を分けた方がよいことが指摘された。

9. CDEX Safety Review Protocol

CDEX で進めている Safety Review に関して説明があり、その後内容に関して議論された。TAMU の Safety Review 方式と大きく異なることや、どの時点で EPSP への報告およびフィードバックをかけるか、がこれまでと異なることから、委員間にて検討され、オペレータとしての最終判断には EPSP パネルは参加しない点を確認された。

10. NanTroSEIZE Operational Protocol

NanTroSEIZE のステージ1における掘削オペレーションに関する手順に関して報告され、議論された。この掘削には SODV も参加するため、最終案は次回の会議で承認される予定となった。

11. その他

SEG Gas Hydrates Volume に関して協力してほしいとの要請があり、松岡・森田委員がボランティアで協力することとなった。

12. 次回の会議

今回は 6 月 18 日 19 日にヒューストンでの開催が決まった。次々回は 11 月 29 日 30 日ドイツでの開催予定となった。

事務局又は J-DESC へのご要望・コメント等

特に無し。